

把握や学校保健・学校安全の推進母体である学校保健委員会の活性化が図られるよう努めた。

3 学校給食の充実

本年度の学校給食の実施状況を児童生徒数で見ると、完全給食は小学校で98.5%、中学校で80.4%、補食給食は小学校で0.2%、ミルク給食は小学校で1.3%、中学校で19.6%の実施率となっている。

米飯給食の週当たりの実施回数は小学校で2.68回、中学校で2.61回、小・中学校計で2.66回の実施となっている。

学校給食費は、一食当たり小学校（中学年）で230円69銭、中学校で268円91銭となっている。

次に、学校給食の次実を図るため、給食関係職員を対象に新任学校給食主任研修会を県内4箇所において開催したのをはじめ、学校栄養職員を対象に新採用・専門研修会を開催して、教育的指導力や資質の向上に努めた。また、校長、教頭等に対し、給食の運営や指導上の専門的知識を高める講習会を行い、健康教育の一環としての学校給食指導の充実に努めた。

さらに、食中毒や労働災害等の事故防止を図るため、研修会及び文書・広報等により衛生思想の啓発、安全管理の指導に努めた。

また、国、県で研究推進校及び地域を指定し、実践研究及び公開発表を通じて、健康教育の充実及び学校給食の改善・充実に推進するとともに、地域に根ざした学校給食を実現するため学校・家庭・地域との連携に努めた。

4 研究大会の開催

第18回福島県学校体育、保健・安全、給食研究大会を県内関係者650名の参加を得て、いわき市文化センターを主会場に1日の日程で開催した。

「自ら進んで健康で安全な生活ができる幼児・児童・生徒の育成を目指して」を大会主題に掲げ、生涯にわたって健康で明るく豊かな生活のできる幼児・児童・生徒を育成するため、学校体育、保健・安全、給食の諸問題について研究協議するとともに、具体的な指針を見だし、多くの成果を収めた。

5 社会体育の充実

県民の多様なスポーツ・レクリエーション活動の推進を図るため、財団法人県体育協会、県高等学校体育連盟や県中学校体育連盟、県スポーツ少年団など体育・スポーツ関係諸団体への助成を通して、それぞれの団体が行う指導者養成やスポーツ振興事業の促進に努めるとともに、県総合体育大会や体育指導委員東北地区研修会の本県開催、東北総合体育大会・国民体育大会や全国スポーツ・レクリエーション祭に役員・選手を派遣するなどスポーツの普及・振興に努めた。

なお、今年度は従来の巡回スポーツ指導事業にかわり、市町村社会体育担当者会議を開催して、社会体育の実践について研修を深め、生涯スポーツの普及・振興に努めた。

さらに、国際大会に出場する本県出身者に対する助成や各種大会の後援や共催を通してスポーツの振興に努めた。

6 第50回国民体育大会福島県競技力向上対策推進の経過

第50回国民体育大会において総合優勝を目指すため「競技力向上推進総合計画」に基づき、「強化組織の整備・拡充」「指導者の養成・確保」「選手の育成・強化」等各般の事業を積極的に推進した。

特に、指導者の養成・確保については、監督・コーチ会議で冬季大会を前に夏季、秋季大会をも含めた監督・コーチ等関係者を集め「勝利を目指す会」を開催し、総合優勝に向けた意思統一を図った。

また、選手の育成・強化については、メンタル面、医科学面の専門的な見地から指導・助言を行う専属アドバイザーコーチ事業を新たに加えた。

「ふくしま国体」冬季大会は、スケート・アイスホッケー競技が7位、スキー競技が4位になり、冬季大会通算で男女総合成績第6位を確保し、今後開催される夏季・秋季大会での総合優勝に向け、好発進となる成果を収めた。

7 体育施設の整備

県営体育施設の整備については、県民の体育・スポーツの振興を図るため、ふくしま国体の漕艇競技会場となる「県営荻野漕艇場」のコースをはじめ、艇庫及びその周辺の整備を図った。

市町村の体育施設については、国庫補助事業により、学校体育施設として、小・中学校プール10カ所、中・高等学校柔剣道場5カ所、運動場照明施設2カ所及び社会体育施設として、照明施設1カ所の整備を図った。

第2節 保健体育関係表彰

1 体育関係

(1) 文部大臣表彰

① 体育功労者

氏名	役職名
金子 徳太郎 (喜多方市)	会津水泳連盟名誉会長 財喜多方市体育協会理事
渡邊 一夫 (郡山市)	福島県スポーツ少年団本部幹事 郡山市スポーツ少年団本部理事長

② 社会体育優良団体

団体名	代表者
矢吹町体育協会	井戸沼俊頼(矢吹町)
会津坂下町体育協会	青木 正昭(会津坂下町)

(2) 福島県教育委員会表彰

① 保健体育功労者(4名)

猪苗代町立長瀬小学校校医	佐藤 熊 亀
南会津柔道会副会長	味戸 稔男子